

2019 年度(平成31年度)学校評価自己評価表

精華中学校区	校番 34	福山市立金江小学校
最終更新日	2019年(令和元年)2月12日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・児童生徒は素直で、ボランティアや地域の行事にも積極的に参加し、社会に貢献している。 ・学校の課題を詳しく示し、学校の取組の様子を今後も伝えてほしい。	児童生徒の現状 ・規範意識は高く、言われたことに対して守ろうとする。 ・自己表現力が弱く、分かりやすく話したり書いたりすることに課題がある。 ・地域とのかかわりが強く、中学校区に対する愛着は強い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を表現している。	生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。	よりよい生活や社会の実現のための目標を達成するために粘り強く工夫しながら取り組んでいる。	よりよい生活や社会の実現のために、他者に配慮しながら、多様性を尊重し協働して学び続けている。
		中学校区として統一した取組等	自分の考えを、話す・書く等で表現させる。	根拠を持って考えを表現させる。	目標を決めて、最後までやり遂げようとする。	相手の立場の考え、立場に立って行動させる。

III 自校

ミッション 地域に貢献する 自立した子どもの育成 ～知性・徳性・耐性を育む高い教育の実現～
学校教育目標 共に高まる たくましい子の育成
現状 <児童生徒>スキル倫理観の観点 自分がすべきことは、理解できている。しかし、場の雰囲気や気分、少しぐらい大丈夫という考えに流され、場にふさわしくない言動をとってしまう児童がいる。固定化された人間関係の中で、指摘をためらう場面もある。正しいと考えたことを、最後まで粘り強くやりぬく意識や態度を育てる必要がある。 <授業>授業アクションプランから 児童と共に単元計画を立て、単元を貫く課題を設定することにより児童が考えをもつ手がかりとなった。児童が互いに根拠や理由を問う場面や、全体交流後に概念化・一般化して深めることが不十分であった。「主体的な学び」の姿を共通認識し、児童と共に学びを創るという教師の姿勢を大切にすることが必要がある。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	創造性	批判的思考・問題解決・意思決定	耐える力	人としての思いやり
めざす子ども像	1～4年	日常生活をよりよくするために、自分の考えを持ち、話したり書いたりして表現している。	日常生活をよくするために、生活体験などの情報を生かし、自分なりの理由を付けて課題を解決している。	目標を達成するために、粘り強く努力している。
	5・6年	日常生活や地域社会をよりよくするために、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書くなどで表現している。	日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から課題に応じた情報を選択し、根拠をもって解決している。	より高い目標を達成するために、粘り強く取り組み、やりぬいている。
研究	教科等 主題・内容等	生活科・社会科・総合的な学習の時間 主体的に課題を追究し、共に高まる子どもをめざして～「単元のデザイン」と「振り返りの工夫」を通して～		
めざす授業の姿 アクションプランと合わせる	○「単元を貫く課題設定をする」ことで、児童が主体的に考えをもつ授業。 ○授業の振り返りを積み重ねることで、児童自身に自分の学びが実感できる授業。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立金江小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的で深い学び	★	新規	自分の考えをもち、かわりの中で考えを深める児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く課題の設定や、付けたい力を明確にした授業実践を学期に1回以上行う。</li> <li>授業の振り返りに自分の学びについて書くことができる児童を80%以上にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童と共に単元計画を立てて進める授業実践を学期に1回以上行う。</li> <li>授業の振り返りに自分の学びについて書くことができる児童を80%以上にする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 授業研究の際、児童と共に単元計画を立て、それを基に1学期に4回、2学期に2回、授業実践を行ってきた。 <input type="checkbox"/> ふり返りの観点を児童に示し、1時間の学びを書くことを積み重ね、79%の児童が達成できた。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、児童と共に単元計画を立て、単元を貫く課題設定をゴールを明確にして、授業実践を行う。</li> <li>ふり返りの観点に沿って、自分の学びについてふり返り、次へつなげるべく継続していく。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 児童と共に単元計画を立て、単元を貫く課題設定をゴールを明確にして、授業実践を行った。 ◎3学期に4回行った。 <input type="checkbox"/> ふり返りの観点に沿って、自分の学びをふり返り、書くことを積み重ねた。◎達成した児童86%	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、引き続き、児童と共に単元計画を立て、単元を貫く課題設定をし、ゴールを明確にして、授業実践を行う。</li> <li>ふり返りの観点に沿って、自分の学びについてふり返り、次の学習へつなげるべく継続していく。</li> </ul>
					読書活動に積極的に取り組む児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>本に親しませ、気に入った本を紹介する場をつくる。(読書郵便の活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書郵便…校区の学校へおすすめの本を1冊紹介する。</li> <li>紹介された本を3冊以上読んだ児童を80%以上にする。</li> <li>学校図書館を利用する回数が増えた児童を50%以上にする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 校区で読書郵便の取組を行い、全児童がおすすめの本を1冊紹介し合った。 <input type="checkbox"/> 紹介された本を3冊以上読んだ児童は67%だった。 年間計画に沿い、現時点での目標に達成している児童は、85%だった。 <input type="checkbox"/> 図書室の環境整備などをした結果、学校図書館を利用する回数が増えた児童が70%だった。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室に置いてある読書郵便を活用し、さらに読書の幅を広げられるようにする。</li> <li>読書月間や読書郵便などを活用し、さらに読書に親しませる。</li> <li>図書室の利用がさらに増えるよう、委員会活動を活性化させる。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 読書郵便を図書室に置いた。 ◎おすすめの本を1冊紹介し合った。 <input type="checkbox"/> 読書郵便、読書デーなどを活用し、さらに読書に親しませた。 ◎紹介された本を3冊以上読んだ児童は85%。 <input type="checkbox"/> 図書室の環境整備などをした。常時開放した。 ◎学校図書館を利用する回数が増えた児童が79.8%	5	5	5
2	自ら考え判断し行動する		継続	人を思いやる行動がとれる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>否定的でなく肯定的な表現「ふわふわことば」を使い、相手を思いやりながら、自分の気持ちを伝えることを児童に意識させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の振り返りで「思いやりのある行動がとれた、してもらった」児童をそれぞれ85%以上にする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 毎週末に、「ふわふわことば」についてのふり返りを継続したり意識付けしたりした結果、「思いやりのある行動がとれた、してもらった」と自己評価した児童は88%だった。	3	3	日常生活の中でも、場をとらえて意識付けし、定期的なふり返りを継続しながら、思いやりのある行動が取れるようにしていく。	<input type="checkbox"/> 毎週末に、「ふわふわことば」についてのふり返りを継続し、意識付けした。児童会でも取り組んだ。 ◎「思いやりのある行動がとれた、してもらった」と自己評価した児童は90%。	4	4	4	日常生活の中でも、場をとらえて意識付けし、定期的なふり返りを継続しながら、思いやりのある行動が取れるようにしていく。
3	働き方改革を行う		新規	教職員の笑顔と元気をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援員の活用の工夫をする。</li> <li>業務改善の会議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1か月の時間外勤務が45時間未満の教職員を85%以上にする。</li> </ul>	<input type="checkbox"/> 校務支援員の活用を工夫するなどした結果、45時間未満の教職員が79%だった。60時間以上になることは2回のみ。	3	3	引き続き、校務支援員の活用を工夫し、業務改善についての会議を行うなどして、働き方改革を行う。	<input type="checkbox"/> 校務支援員の活用を工夫したり業務改善についての会議を行った。◎45時間未満の教職員が92%だった。	5	5	5	引き続き、校務支援員の活用を工夫し、業務改善についての会議を行うなどして、働き方改革を行う。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。